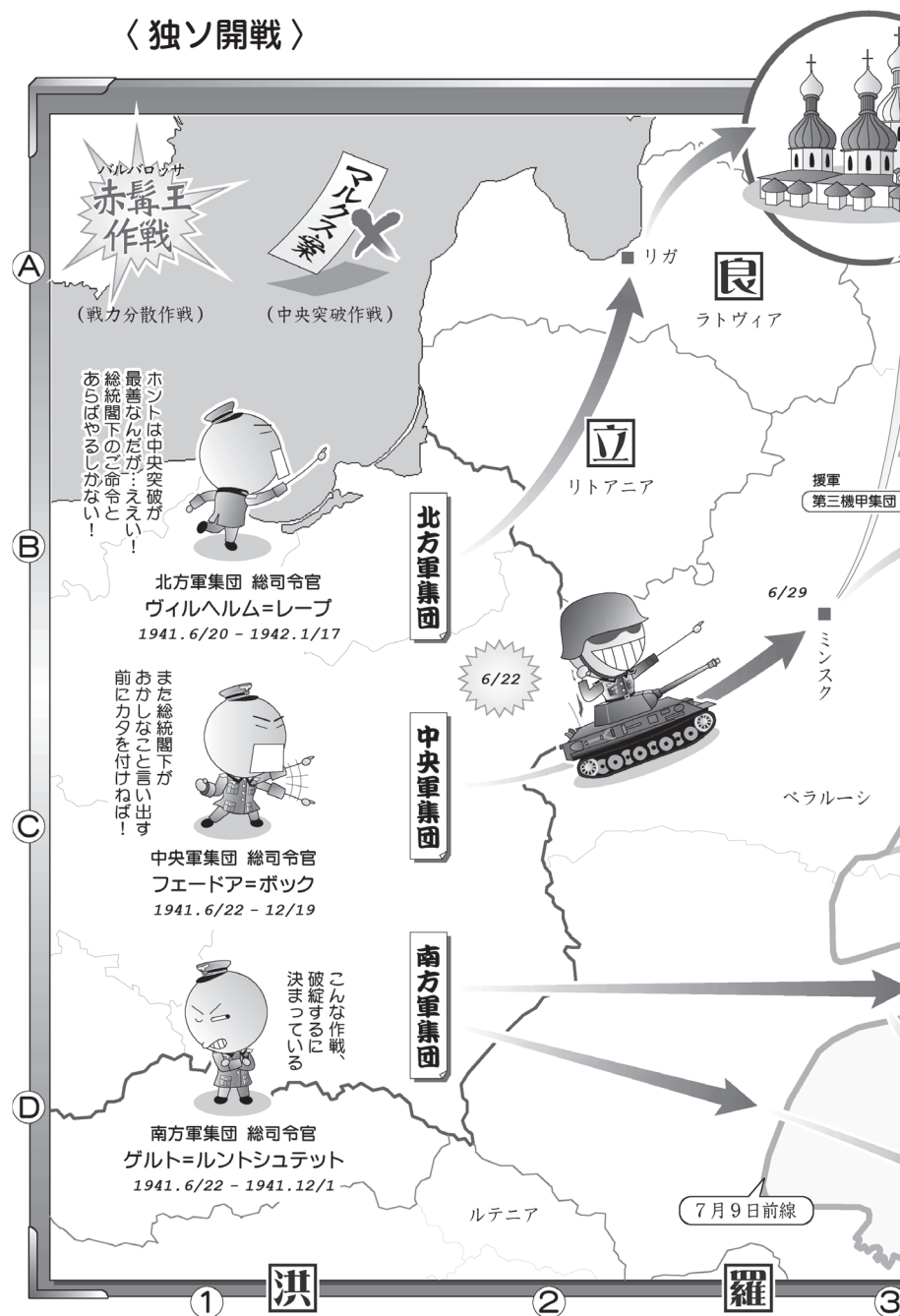
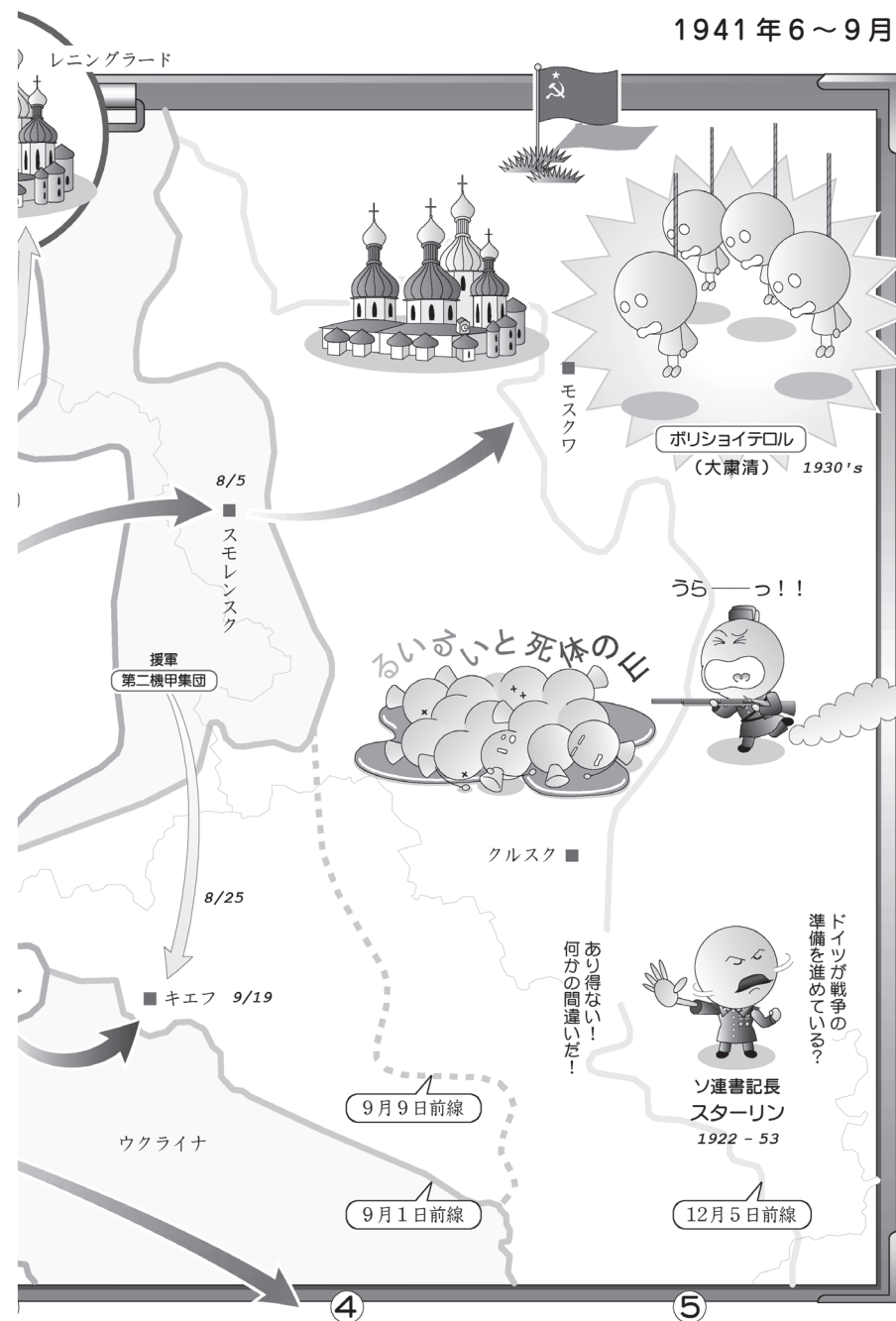


〈独ソ開戦〉



1941年6～9月



すでに触れましたように、ほんとうに恐ろしいのは“目の前に立ちはだか
る敵”より、「味方の裏切り」「無能な味方」など、“味方のふりした目
に見えない敵”です。

「真に恐れるべきは“有能な敵”ではなく“無能な味方”である^(＊01)」

—— ナポレオン = ボナパルト

「“無能で勤勉”なタイプは如何なる責任ある立場も与えてはならない」

—— クルト = ハンマーシュタイン

ジョーク
冗句ではなく、ムッソリーニさえ余計なことをしていなければ、こたびの大
戦はドイツが勝利していた可能性は充分にあります。

「5月15日」に設定していた「バルバロッサ作戦(A-1)」は、ムッソリーニ
が勝手に動いたせいでバルカン制圧に手間取ってしまい、計画は5週間以上も
ずれ込んで「6月22日(B/C-2)」に再設定されることになりました。

よりによって「6月22日」！

すでに学んでまいりましたように、「6月22日」はナポレオン没落の原因と
なったロシア遠征が始まった日であり、じつに縁起が悪い^(＊02)。

マインフューラー
「総統閣下！

決行するにしてもこの日はやめましょう！

あまりにも縁起が悪すぎます！」

しかし、側近の反対にもヒトラーは聞く耳を持ちません。

—— だいじょうぶだ。

たかがフィンランドごとき小国に苦戦^(＊03)するような軍など、

我が軍を以てすれば2ヶ月もあれば粉碎できる！

ジェネラル・フロスト
“冬將軍”など来る前にすべてが終わっておるわ！

ひょっとしたらヒトラーは、敢えてナポレオンが失敗した「6月22日」から

始めて成功させることで、何かと比較されるナポレオンより自分が“格上”だとい
うことを示そうとしたのかもしれませんが。

しかし、バルカン作戦に貴重な“時間”を奪われたことで、あらゆる側面にお
いて準備不足でした。

これは如何にもまずい。

兵法の大家・孫子も強く戒めています。

—— 勝兵は先ず勝ちて、而る後に戦いを求め、

敗兵は先ず戦いて、而る後に勝ちを求む。^(＊04)

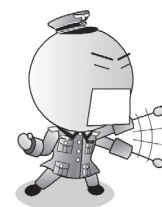
いくさ
戦の勝敗は開戦前の準備段階ですでに決しているのであって、綿密な「準
備」こそが勝利のすべてだと説いています。

それをしない者は、戦う前から敗れている。

そして、こう続けています。

—— 積水を千仞の谿に決するが若き者は形なり。

「積水」というのは“(堰堤などに)満々と溜えられた水”のこと^(＊05)で、
この堰を切れば水が怒濤の如く深い谷を勢いよく下り落ちていきます。



中央軍集団 総司令官
フェードア=ボック

中央軍集団

6/22



(＊01) ナポレオンが起死回生をかけたワーテルローで敗れたのも「無能な味方」のせいでした。
詳しくは本シリーズ『駆け抜けるナポレオン』をご参照のこと。

(＊02) ちなみにこの「6月22日」は、ワーテルローの戦いに敗れたナポレオンが退位させられた日
であり、第二次世界大戦でフランスがドイツに降伏(コンピエーニュの森の休戦協定)し
た日でもあります。

(＊03) 蘇芬(ソフィン)戦争のこと。

(＊04) 勝利を収める軍は、開戦前の準備段階で確実に勝てる状態を構築してから戦に臨み、逆に
敗走する軍は、開戦してしまってから如何に勝つかの方策を練るものだ——という意味。

(＊05) 余談となりますが、「積水化学工業(株)」の社名はこの格言に由来しています。